

長野市公共交通活性化・再生協議会 自転車活用推進部会 議事概要

- 1 開催日時 令和5年11月21日(火) 午前10時00分～午前11時30分
- 2 開催場所 長野市役所第二庁舎10階 会議室202
- 3 出席者 出席委員7人、事務局職員7人
- 4 次第
  - 1 開 会
  - 2 あいさつ
  - 3 協議事項
    - (1) 第2次長野市自転車活用推進計画について
  - 4 その他

資料1～2

**【3 協議事項】**

**(1) 第2次長野市自転車活用推進計画について**

事務局から「資料1」及び「資料2」に基づき説明を行った。

**【意見等】**

◆A委員

- ・資料2裏面の自転車保険加入の促進で、ケーブルテレビでの啓発とあるが、ケーブルテレビは全員が加入しているわけではない。市報の活用など他の方法がよいのでは。チラシを住民自治協議会の各部会に配布する方法もある。
- ・老人クラブなどでヘルメットがないから自転車に乗るのをやめるという声がある。高齢者にも情報をもらいたい。できれば高齢者向けには回覧板よりチラシ配布の方がよい。

◆B委員

- ・高齢者はヘルメットが高いと感じるのか、それとも面倒だと感じるのか。

◆A委員

- ・面倒と感じているのでは。帽子型ヘルメットの情報でヘルメットの購入が広がったことがある。そういった情報があるといい。
- ・車道を自転車で走るのは怖い。それで高齢者が自転車から離れていく。

◆B委員

- ・自転車専用通行帯があるところであっても、高齢者と子どもは歩道を走ってよい。ただし、歩道を走る場合はゆっくりと。こういった情報が知られていない。
- ・自分自身の老後と健康のため、車に乗れなくなってから自転車に乗り換えるのではなく、もっと早い段階で自転車に乗って健康を維持する、というような説得力ある広報が大切。

◆C委員

- ・資料2に「交通安全教育講師」や「交通安全運転指導員」とあるが、市内で今何人ぐらいいるのか？

事務局

- ・市から委嘱された人が5名活動している。
- ・市で委嘱された人以外にも、自動車販売店などいろいろな施設で交通安全教室を担っていただいている。

◆B委員

- ・自転車販売店に協力してもらうのはどうか？

事務局

- ・交通安全教育講師は、自転車の安全だけでなく交通安全全体の教育を担っている。自転車販売店は自転車の知識がある方は多いと思うが、交通ルール全体となると難しいように思う。

◆B委員

- ・交通安全教育の人員確保が課題。自転車販売店の方に講習を受けていただいて教育安全講師の資格をとってもらい、店に掲示できるようにするなどの方法もある。

◆A委員

- ・小学生に交通安全教室を開いているが、今の小学生はあまり自転車に乗らないのは。高校生に実施してはどうか。

◆B委員

- ・高校生はイヤホンを着用している人が目立つ。高校生に対する教育は大事だと思うが、市では高校生への教育は実施しないのか。

事務局

- ・高校は主に県立であることもあり、市では保育園から中学校までの教育を実施している。高校生向けに安全教室は実施していないが、警察などと連携して啓発活動を実施し注意を促している。

事務局

- ・毎年4月に高校の新入生向けに自転車に関するパンフレットを配布し広報しているが、高校生がパンフレットを見てくれているのかは疑問。若い世代向けには、紙でなくWebサイトを活用した広報が向いているのではと感じる。

◆D委員

- ・高校生になって急に教育をしても難しい。感覚として小学校の3～4年生くらいが話を聞く姿勢ができてきて、物事に興味を持って吸収できる時期ではないか。反応も良い。
- ・環境や健康も大事だが、もっと自転車を使うメリット感を出すのはどうか。自転車利用でポイント還元の実業など、一般の人が自転車を使いたくなるような方法もある。そういった意味でも第2次計画での環境づくりが大事だと感じた。国や県でも

優先的に整備する部分は協力していきたい。

- ・Japan Alps Cycling Roadだが、長野県一周はルートとしてとても長いので、地区版のサイクリングコースなどの検討はどうか。飲食店や土産物店などの情報も掲載できる。軽井沢町など他の自治体でも検討されているようだ。長野市でもそういった検討を進めてもらえるといいのでは。

#### 事務局

- ・コンベンションビューローでもいくつかサイクリングコースを作成している。観光の分野で第2次計画でも「Japan Alps Cycling Roadの活用」が課題として出るので、そちらと連携していきたい。

#### ◆B委員

- ・季節ごとのストーリー性を持たせたコース設定がよい。桜の季節には車だと混んでいるが、自転車なら渋滞なく行ける。帰りには団子など食べて帰れるような、そんなストーリーでコースを検討してもらいたい。
- ・長いコースは荷物が課題。このサイクリングコース専用の荷物を運ぶ車の手配など、サポートカーの仕組みができれば世界中から人を呼べると思う。長野はあちこちに温泉がある。すごいポテンシャルなので広報次第。
- ・高校生の教育については、警察の協力が必要。無灯火の自転車などは実際に注意を行ってほしい。

#### ◆E委員

- ・自転車は今のところ赤切符だけだが、警察庁の方でも青切符の検討も進んでいるようなのでその辺は今後も議論していきたい。

#### ◆A委員

- ・二人乗りの自転車は今見かけない。これは警察の努力の結果だと思う。

#### ◆B委員

- ・自動車のシートベルトも努力義務だったときがある。今は後部座席もきちんとシートベルトをつけている。注意をすることはできるので、署内でも検討していただくとありがたい。

#### ◆C委員

- ・高校生の指導は市では行っていないとのことだが、中学生までの指導をしっかりとやれば、そのまま高校生になっていく。市でできることをしっかりとやる方向で考えてもらいたい。

#### ◆E委員

- ・4月に春の安全運動では小学校から高校まで啓発を行っている。スタントマンを使っていたいわゆるスケアードストレート方式の体験型教育も実施している。費用がかかるの

で全てとはいかないが、JA と協力しながら行っているところ。

- ・違反に関しては、二人乗りの自転車利用者には必ず警察官は声をかけて止めているので、声かけの効果はあるように思う。難しいのはイヤホンの着用。イヤホンの着用だけでなく、外の音が聞こえない状態でないと違反にならない法律になっており、注意しづらいのが現状である。

#### B 委員

- ・第2次計画へは、中学校への指導は盛り込めそうだが他はどうか。

#### C 委員

- ・道路に出てくる青いマークはみんな知っているのか。マークの意味を広く知らせる広報活動を考えてほしい。

#### B 委員

- ・青い自転車専用通行帯のあるところは、自動車が避けて走行している。効果はあると思う。まだまだ知らない人がいれば、広報活動は引き続き必要である。

#### 事務局

- ・今年度初めて矢羽根型路面表示の話をラジオで広報した。毎年同じ広報ではなく、通行帯や路面表示の意味などあらゆる媒体で広報できるようにしたい。

#### B 委員

- ・矢羽根を逆走する自転車は少なくなった。矢羽根の向きでなんとなく逆走しにくく、一定数効果はあるように思う。
- ・広報はまだまだ足りていないようなので、第2次計画に盛り込んでもらいたい。

#### 【4 その他】

次回の部会は来年2月頃の開催予定。令和5年度の実績報告の説明にあわせ、「まちづくりアンケート」の結果をふまえた第2次計画の素案をご協議いただく予定。

午前11時30分終了